

城影



2023年 2・3月号

発行 姫路市立城内図書館

兵庫県姫路市本町68-258

電話 079-289-4884

便利なサービス開始!

姫路市立図書館では3月1日(水曜日)から新しいサービスを開始します。

1. 電子図書館サービス!

スマートフォン(スマホ)や自宅のパソコンから、図書館の提供する電子書籍が読めるようになります。

2. マイナンバーカードでお得♪

マイナンバーカードを「貸出券」として登録されると1人最大12冊まで本の貸出が可能になります。(現在は6冊まで)

3. Myライブラリが充実

ウェブサイト上で蔵書予約や貸出状況の確認ができる「Myライブラリ」で「本棚」機能に加えて、借りた本が記録できるようになります。



詳しくは図書館
ホームページまたは
各館窓口まで♪

資料手入期のため休館します

2月20日(月曜日)から2月28日(火曜日)まで

- 城内図書館・各分館は、蔵書点検のため休館いたします。
- 駅前市役所図書予約コーナー・坊勢図書コーナーも利用できません。
- 「Myライブラリ」からの本の予約、貸出延長はできません。
- 整理期間中の本の返却は、各館の返却ポストをご利用ください。
- 利用者の皆さまには、大変ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解くださいますようお願い申し上げます。

2月・3月 図書館カレンダー (■が休館日)

2月 February 如月						
城内図書館						
日	月	火	水	木	金	土
	■		1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

分館						
日	月	火	水	木	金	土
	■		1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

3月 March 弥生						
城内図書館						
日	月	火	水	木	金	土
	■		1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

分館						
日	月	火	水	木	金	土
	■		1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

※白浜分館は令和5年8月末(予定)まで休館

松岡享子 ～子どもに言葉の贈りものを～

児童文学者で、東京子ども図書館の理事長でもあった松岡享子さんが、昨年一月に亡くられました。松岡さんは海外の優れた児童書の翻訳や、ストーリーテリングの普及に尽力されました。また、子どもが本やおはなしを通して心を育て、幸せな子ども時代を過ごすことを願って、家庭での読み聞かせの推進や図書館での児童サービスの充実についても働きかけてこられました。

松岡さんが訳された楽しい絵本や物語の多くは、姫路市立図書館でも各年齢別の推薦図書コーナーに置いており、長い間たくさんのお子どもたちに読み継がれています。下にその一部をご紹介します。きっと、子どもの頃のお気に入りだったり、お子さんに読み聞かせたりした思い出のある本があるのではないのでしょうか。まだ読まれたことがない方も、どうぞお子さんやお孫さんと一緒にお楽しみください。

〈翻訳絵本・児童書〉

『こいぬのくんくん』『ぶたのうたこさん』など ディック・ブルーナ/文・絵 福音館書店

『かしこいビル』ウィリアム・ニコルソン/作 吉田新一/共訳 ペンギン社

『くまのコールテンくん』ドン・フリーマン/作 偕成社

『おやすみなさいフランス』シリーズ

ラッセル・ホーバン/作 福音館書店, 好学社

『おさとぼうしうり』エズフィール・スロボドキーナ/作・絵 福音館書店

『こぐまのくまくん』シリーズ E.H. ミナリック/文 モーリス・センダック/絵 福音館書店

『がちょうのペチューニア』ロジャー・デュボワザン/作 富山房

『番ねずみのヤカちゃん』リチャード・ウィルバー/作 福音館書店

『あたまをつかった小さなおばあさん』シリーズ ホープ・ニューウェル/作 福音館書店

『くまのパディントン』シリーズ マイケル・ボンド/作 ペギー・フォートナム/絵 福音館書店

『がんばれヘンリーくん』シリーズ ベバリイ・クリアリー/作 学研

『黒ネコジェニーのおはなし 1～3』エスター・アベリル/作・絵 張替恵子/共訳 福音館書店

〈創作絵本・児童書〉

『おふろだいすき』林明子/絵 福音館書店

『なぞなぞのすきな女の子』『じゃんけんのすきな女の子』学研

『くしゃみくしゃみ天のめぐみ』福音館書店

〈昔話の本（翻訳）〉

『グリムのむかしばなし 1・2』のら書店

『子どもに語るイギリスの昔話』『子どもに語るアジアの昔話』こぐま社

『三本の金の髪の毛 中・東欧のむかしばなし』のら書店

(平山)

図書案内

『霸王の家』

司馬 遼太郎/著 新潮社 (F-シ)

徳川家三百年の礎を築いた徳川家康。

人質として過ごした幼少期から青年期、天才武田信玄との合戦による大敗北、薄氷を踏むような信長との同盟関係、本能寺の変以降の秀吉の台頭。家康の人生は、生まれ落ちた時から苦難の連続でした。

本書では、家康の人生のターニングポイントとなる事件をたどりながら、国を背負い、滅びるか生き残るかという重大な局面における家康の判断や行動、そうしなければならなかった心の内を描くことで、家康の人物像を浮き彫りにしています。

司馬遼太郎は、家康の人物像を「どうみても英傑の風姿を持たず、外貌も日常もそして才能もごく尋常な人物」としながら、ただ一点、きわだって人と違う部分が、自己を法人のように考え、行動したところだと述べています。

個人としての感情を手放し、慎重すぎるほど慎重に行動した家康は、時に嫡男を死に追いやった信長や重臣にまで配慮を怠らなかった人として描かれています。

複雑で底知れない個性を秘めた家康を知ることができる一冊です。

(難波)

今月の子どもの本

『年とったばあやのお話かご ファージョン作品集 1』

エリナー・ファージョン/作 石井 桃子/訳 岩波書店 (GY-フ)

ドリスたち4人きょうだいのばあやは、いつも寝る前に子どもたちにお話してくれます。ばあやは、とても年を取っていて、ずっと昔の昔のことまで覚えているので、お話のたねがつきるといことはありませんでした。

昔、あるお城にベルタという女の子が生まれました。洗礼式には妖精たちが招かれ、ベルタにいろいろな贈り物をし、水の精ローレイは「金の足」を授けるといいました。殿さまやばあやが「金の足」の意味がわからず考え込んでいたとき、式に招かれず腹を立てた小妖精ルンペルシュトリツヘンが忍び込んできてベルタを指さし、「生きている限り、そなたの左足のくつ下には穴があく」といいました。足が金ではお嫁にもらってくれる人がいないのではと心配し、ベルタの足はいつもくるんで隠しておくことになりました。ところが、ベルタのくつ下は、いつもはくが早いかすぐに穴があいてしまうのでした…。(「金の足のベルタ」)

他にも、チョウのように小さい中国の王女の話「中国の王女さま」など13篇のお話が入っています。

読んでもらえば7歳くらいから。

(峯)